

『英語4技能型テストへのアプローチ①』の 導入・実践報告

—大学入学共通テストと民間英語試験に向けた指導のために—

澤田 一平

1. はじめに：導入までの経緯

大学入学共通テストの本番まで、あと2年を切った。平成29年度の試行テストで、センター試験にあった発音、アクセント、文法・語彙の独立問題がなくなったことや、多種多様な読解素材を読み、それらを理解し、判断することが要求されるようになったことは、大きな衝撃となった。また、同年度にはGTEC for Studentsの校内実施を始めたため、それまでにも様々な教材を活用し、4技能指導を行っていたものの、より効果的に指導出来る問題集を探していた。2017年9月に『英語4技能型テストへのアプローチ①』が数研出版から出てきたのはちょうどそんな時であった。本校では平成30年度入学生に導入する前に、同年度の第3学年の総合的な学習の時間の選択講座「実用技能英語講座」で本教材を導入してみた。英検・GTECなどでの資格取得を目指すという講座の目的にも合致しており、指導教員、生徒からも好評価であった。令和元年度から新入試1期生となる第2学年で、一括採用し、現在に至っている。

2. 本教材を導入して①：進捗、活用ペース

本校では、『英語4技能型テストへのアプローチ①』を、第2学年全員を対象にコミュニケーション英語Ⅱと英語表現Ⅱの2科目共通の副教材として運用している。本教材は7回分のTESTが4技能(R, L, S, W)それぞれに用意されている構成であるため、それらのテストのうち、R, Lをコミュニケーション英語Ⅱで実施し、S, Wは英語表現Ⅱで実施している。進捗は毎週2技能のうちの1技能1回分を行うことを大まかな目安とし、中間考査・定期考査の期間を挟みながら、1学期はそれぞれの技能のTEST4までを、コミュニケーション英語Ⅱ、英語

表現Ⅱそれぞれで、約8週で行った。但し、クラスの様子や授業の展開によっては、一度にテストの1回分全てを行わず、各回のPart A, Part Bを2日に分けて実施した。今後の予定は、10月までにTEST7まで実施し本教材を完了し、11月以降は引き続き『英語4技能型テストへのアプローチ②』を利用していく予定である。

3. 本教材を導入して②：授業の変化

これまでは、1コマ50分の授業で、単語テストや例文テストも随時実施していた。今回本教材を導入し、その実施の時間を捻出しなければならなくなった。それにより、コミュニケーション英語Ⅱ(4単位)では、これまでも週に1, 2回は授業冒頭に小テストを実施していたところに、更に本教材を実施することで、週4時間の授業で毎回前半10～20分が小テストか本教材の活動、となる週もあった。最初は30分しか教科書を用いていない指導に、戸惑うこともあった。しかし実際には、教科書に充てる時間が限られると、逆に限られた時間で残りの指導を行うことになり、学習活動を50分の中に効率良く配置するために、授業の流れを見直し工夫する好循環が生まれた。

4. 本教材を導入して③：生徒の反応と生徒への成果

コミュニケーション英語Ⅱと英語表現Ⅱの共通教材にしたことによって、英語は座学ではなく技能を高める教科である、と両科目を通じて生徒に意識させることが出来た。また、本校では、6月にGTEC for students アセスメント版を校内で実施し、全員受験した。生徒は1年次(前年度)12月に同テストを受験しており、半年間、4技能のスコアを前回よ

り高めるよう、日々の指導の中で教員からの声かけや意識づけを行ってきた。1年次から継続した指導の流れがあったことも、スムーズな導入に繋がったのだと思う。また、本原稿を執筆している時点で、6月に実施しているGTECのR、Lの速報値が返ってきた。私が担当している3クラス(人文科学コース1クラス、文科科学コース2クラス)では平均して37.2点、また人文科学コース1クラスのみでは54.4点、前年度12月回からの半年でスコアが伸びていた。複数のクラス・コースで本教材を扱うのは初めてであったが、この結果を見ても、広いレベルの生徒に何らかの成果と4技能に対する肯定的な評価をもたらすことが出来たと考えている。

5. 本教材を導入して④：今後の展開、指導の継続

本校のカリキュラムは1年次には普通科1コースのみの設定だが、2年次からは進学に力を入れた、人文科学コース、自然科学コースの2コースと、総合型の文科科学コースと本校独自のスポーツ科学コースとに分かれ、授業内容もコース毎に異なったものとなる。英語科の授業も、まず発展2クラスについては、2年次夏以降に数研出版の『大学入学共通テスト準備 共通テスト徹底リハーサル Basic』を

『英語4技能型テストへのアプローチ①』『英語4技能型テストへのアプローチ②』と共に運用しながら、新テスト・実用技能英語試験に向けて、生徒の実力を錬成していくことを目標にしている。文科、スポーツ科学コースについては、2年後期に『英語4技能型テストへのアプローチ②』を学習し、その後3年次に学校独自の選択科目として「英語演習」を用意している。英語演習では教科目標としてCEFR A2～B1獲得を目標に設定している。この科目を選択した生徒たちは今年度の学習の流れを引き継ぎ、より高い学力を目指していく予定である。

6. まとめ

本校では、教育改革・入試改革という大きな流れが押し寄せる中で、『英語4技能型テストへのアプローチ①』を、大学入学共通テストに向けた生徒の学力育成に向けた授業改善、新しい指導展開に結びつけることが出来た。生徒の学力伸長にも一定の効果が出始めているが、次年度の指導と共通テストで一層の成果が現れるよう、更なる工夫と努力を継続していきたい。

(京都府立北嵯峨高等学校 教諭)